

文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽
応援団通信

第22号

2013. 1. 3.



よしつねせんぼんざくら
『義経千本桜』

文楽応援団ホームページ <http://bunrakuouendan.web.fc2.com>

文楽応援団

検索



携帯QRコード
はこちら

文楽応援団ツイッター <http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>

文楽応援団の自己紹介

Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
 - ②文楽関係の展示
 - ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
 - ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です
- この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います

新規団員を募集します

文楽の普及のためにあなたも応援団に参加してください

国立文楽劇場の友の会会員であることが必要です

募集要領・申込用紙は国立文楽劇場 1階展示室の文楽応援団連絡デスクにあります。

締切は平成25年1月25日(金)です



ほんちょうにじゅうしこう
『本朝廿四孝』

〒542-0073 大阪府中央区日本橋1-12-10
国立文楽劇場 事業推進課 文楽応援団担当
TEL 06(6212)2531(代) FAX 06(6212)1202

『初めて文楽を観たころ』

国立文楽劇場支配人
櫻井弘

初めて生で文楽を観たのは、昭和五十一（一九七六）年五月の東京・国立劇場の公演でした。昼の部が『芦屋道満大内鑑』と『染模様妹背門松』、夜の部が『須磨都源平躑躅』と『夏祭浪花鑑』。この時の記憶はなぜかほとんどありませんが、「葛の葉」を弾いていた竹澤弥七師の端正な音色と舞台姿ははつきりと覚えています。しかしこれは、弥七師の東京での最期の舞台となっていました。

つまり私は、この月に亡くなった二代野澤喜左衛門師や、この二年前（昭和四十九年）に亡くなった先代鶴澤寛治師を、生で聞いています。文楽初心者にとってこれは大きなハンディキャップであり、文楽ファン（の諸先輩方）が、「寛治は凄かったよ」「喜左衛門はこんなではなかったぞ」と言われるのを、黙って聞くしかありませんでした。

一度だけの出会いに終わってしまった弥七師も含め、この名人たちの「音」をどうにかして聞きたい、諸先輩方の話が少しでも理解できるようにになりたいという思いは、自ずとレコードやテープに記録された「音」を手に入れ、聞き倒すことに情熱が向かいます。それが文楽と私の「因縁」の始まりでした。

この年は東京・国立劇場の開場十

周年にあたり、文楽公演も変則的な日程で行われました。いつもの九月公演がなく、次の公演は十二月の『仮名手本忠臣蔵』の通し。開場十周年記念ということで、いつもの若手公演ではなく、全員出演の本公演です。

昭和五十一年という年は、文楽にとっては辛い一年でした。先代寛治、喜左衛門と、戦後の文楽を支えてきた名人を相次いで失い、しかも次の時代を担っていくと目された野澤勝太郎師が七月に病に倒れ（後に復帰されましたが）、弥七師が「忠臣蔵」の前月（十一月）に急逝します。まさに満身創痍の文楽が悲壮な覚悟で臨んだのが、この「忠臣蔵」でした。

学生料金で客席に座っていた私は、この文楽の気魄に完全に魅了されました。言葉の持つ力を引き出す迫力ある声、太棹の響きの中にある豊かな表現力、人間以上に人の心を持つ人形、豪快なように緻密に計算され尽くした芸。文楽の全てが私の心を掴んで離しませんでした。

さて、昨年十一月の「忠臣蔵」。三十六年前のことを様々思い出しながら、毎日を過ごしていました。あの頃の私と同じ感動を味わった青年が客席のどこかにいたことを、私は信じています。



ことぶきききさんばそう
『寿式三番叟』

『大津の旧跡を訪ねて』

齋藤 美智子

文楽応援団恒例のバスツアー、今年も十二月二日に二十名が参加して大津方面へ行ってきました。古くから物資の集散地・街道の要衝として賑わった大津、そこに残る旧跡やゆかりの地を訪ねましょうというプランです。

文楽劇場前を九時に出発して一時間と少しで大津市追分に着きました。ここは東海道と伏見街道の分岐点で江戸時代には茶店や土産物屋が立ち並び大いに栄え、土産物として人気のあった大津絵も売られていたのです。現在、井筒八つ橋さんの店舗の前に「追分」の由来を書いた高札と「大津絵発祥の地」の石碑が並んでいます。

文楽「傾城反魂香」の所謂「吃又」の件では、又平が「大津絵を書いて生計を立てている」とされ、「将監閑居」はここから約一里の音羽山に設定されているとのこと。国道一号線沿いに建っている「逢坂山関跡」を車窓見学して通り過ぎ、

「関蟬丸神社（下社）」へ。琵琶の名手蟬丸が合祀されているこの神社の入り口には「音曲芸道祖神」の石碑が建っていて、境内には舞楽殿もあり、いかにも諸芸上達の神社の趣でした。

次に圓満院に併設されている大津絵美術館へ。実際に見る大津絵は、おかしみがあつて温かく、人の心を和ませる独特な魅力がありました。「ひょうたんなまず」や「かみなり

の太鼓吊り」の絵には身につまされるものがあり、団員さんたちの笑い声が広がりました。文楽『ひらかな盛衰記』「大津宿屋の段」にも大津絵が取り上げられています。

昼食は琵琶湖を一望できるホテルでのランチ。広間でゆつくりとお昼を楽しみました。

午後からは木曾義仲の墓所がある「義仲寺」へ。JRの膳所駅の近くですが、義仲寺の辺りはもともと粟津ヶ原と言ったそうで、「この地で討たれ、埋められたのでしょね」とご住職が丁寧に解説して下さいました。最後に訪ねた「浄土寺」は「忠臣蔵」大石内蔵助家の発祥の地にあり、大石家の菩提寺です。ここでもご住職から大石家五代の系図や浅野家との関わり、史実にまつわるエピソードをお聞きすることができました。

何にでも疑問を持って、知りたい・聞いてみたいという好奇心旺盛の応援団員。時間が足りないほどでした。「やっぱり文楽はやめられない！」



『大津集合写真』

最近の活動風景

「忠臣蔵」ゆかりの地



左：大石神社 中：山科神社 右：おかるモデルの墓で



上：椿本陣保管の「宿帳」(コピー)
左：茨木市宿川原(椿本陣)

秋の吉野山文楽列車



文楽応援団 東西と一ざい



- *「夏休み公演」千種楽に「満員御礼」の看板が出ました。
- *「11月公演」最終3日間「満員御礼」の看板が出ました。
- *「夏公演」「11月公演」連続で「大入り袋」をいただきました。
- *文楽応援団HP来訪者数が21,982人、文楽応援団ツイッターのフォロワーが555人になりました。(2012.12.15現在)
- *「劇場前二つの文学碑」の清掃をしました。
- *次回公演

東京:2月9日(土)～2月24日(日)

大阪:4月6日(土)～4月29日(月・祝)

※18日(木)休館日

解説風景



「箕面文化財愛好会」出前解説
2012.10.20

「大阪あそ歩」のみなさん
2012.11.14



平成24年11月公演プログラム

【菊綴】
平成二十四年十一月公演のプログラムの表紙には大きな紋が二つ。一つは塩谷判官の「違鷹の羽紋」、もう一つは高師直の「五三の桐紋」。その紋の上に細長い木綿布が付いています。それは菊綴、又は紋留と称し、の字型の真ん中に結び目を付けます。これは本来の素襖の革菊綴を模したものと思われま。本来紋留の目的は縫い目のほつれ止めでしたが、文楽の衣裳では装飾的なものとしてつけています。
(「日本の服飾史」および「文楽の衣裳」より引用)

- 7/20 第4回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 7/21 夏休み公演初日。展示解説、演目説明など。8月7日まで。
応援団通信21号3,000部発行。
- 7/28 YWCAより英語解説依頼2名。担当:岡持、北。
- 8/16 応援団HP委員会。出席:6名。
- 8/18 スタッフ会議。出席:9名。
- 8/25 第5回研修会。出席:29名。「夏休み公演」総括。
学習会「帝国座をめぐる川上音二郎のこと…」講師:羽田。
- 9/ 4 第5回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 9/16 演目ゆかりの地めぐり(東京篇)。泉岳寺、吉良邸跡など。参加:2名。
- 9/23 演目ゆかりの地めぐり(京都篇)。大石神社、榎木町遊郭跡など。
参加:8名。
- 9/29 「歴史街道推進協議会」より解説依頼21名。担当:岩田、猪飼、
大野、岡持、小倉、折井、金岡、北、杉本、前川。
- 10/12 「大阪あそ歩」より解説依頼21名。担当:大野、岡持、斉藤。
- 10/13 スタッフ会議。出席:8名。
- 10/20 第6回研修会。出席37名。解説日程調整。
11月公演演目説明、見所解説。担当:藤田。
学習会「記録映画を観る-仮名手本忠臣蔵より-」講師:榎田。
- 10/20 「箕面文化財愛好会」より出前解説依頼59名。
担当:荒木、大野、小倉、榎田、立川、畑、林。
- 10/26 「県立西宮今津高校」より應典院で出前解説20名。
担当:馬越、長田、斉藤、林、前川、八木。
第6回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 11/ 2 11月公演前準備。文楽応援団活動写真ℳℳ作成。
世話人:荒木、安藤。
- 11/ 3 11月公演初日。展示解説、演目解説など。11月25日まで。
- 11/14 「大阪あそ歩」より解説依頼17名。担当:荒木、岡持、折井、安藤。
第1回応援団通信22号編集会議。出席:3名。
- 11/21 第7回研修会招集状発送事務作業。世話人:安藤。
- 11/29 第2回応援団通信22号編集会議。出席:3名。
- 12/ 2 「大津の旧跡を訪ねて」バスツアー。参加者:20名。
- 12/ 6 「骨粗鬆症・生活習慣病ネットワーク」より出前解説依頼。担当:木田、斉藤、松井、安藤。
第3回応援団通信22号編集会議。出席:2名。
応援団HP委員会。出席:5名。
- 12/ 8 スタッフ会議。出席:8名。
- 12/15 第7回研修会。解説日程調整。「11月公演」総括。年間総括。
1月公演演目説明、見所解説。担当:藤田。
石碑の掃除など。出席:40名。
応援団HP委員会。出席:3名。
- 12/21 第7回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 12/25 1月公演前準備。文楽応援団活動写真ℳℳ作成。
世話人:荒木、安藤。

文楽公演

平成25年3月

地方公演スケジュール

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」かつらがわれんりのしがらみ『桂川連理柵』「六角堂の段」「帯屋の段」「道行朧の桂川」
【夜の部】「解説」ににんかむろ『二人禿』よしつねせんぼんざくら『義経千本桜』「すしやの段」

地方公演チケットお問い合わせ先

3月3日(日) 姫路キャスパホール 079-284-5806	3月10日(日) 丸亀市民会館 0877-23-4141
4日(月) 京都府立文化芸術会館 075-222-1046	16日(土) 宇都宮市文化会館 028-636-2125
7日(木) 戸畑市民会館(大ホール) 093-562-2655	17日(日) 大田区民プラザ(大ホール) 03-3750-1611
8日(金) アステールプラザ 082-244-8000	20日(水・祝) 四日市市文化会館(第二ホール) 059-351-2915
9日(土) 倉敷市芸文館 086-434-0010	

文楽応援団通信 第22号 2013年1月3日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073 大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-2531(代) FAX06-6212-1202